

平成 21 年 10 月 1 日 発行

品質管理監査を開始

平成 21 年度の品質管理監査が去る 9 月 29 日から始まりました。全 47 工場を対象に、約 1 ヶ月間にわたって行われる予定です。

例年実施されているこの監査は、高知県下の生コンクリート工場の品質管理体制の維持状況を把握し、「全国生コンクリート品質管理監査会議」の決めた基準に従って合否判定するもので、次の場合を合格と定めています。

- ① J I S マーク表示認証工場であること。
- ② 各監査項目の減点数の合計が 20 点以内であること。
- ③ 圧縮強度、スランプ、空気量、塩化物含有量並びに材料の計量精度の現地検査の評価は、いずれも C 評価（不適合）でないこと。
- ④ コンクリート技士、品質管理責任者の選任及び強度管理の評価は、いずれも C 評価（不適合）でないこと。

さらに本年度からは、県外の工場での不適合原材料使用問題等を踏まえ、実際に使用されている骨材が社内規格に規定されたものと合致しているかどうかチェックされるなど、一段と厳しくなっています。

監査の結果は 12 月までに集計され、「高知県生コンクリート品質管理監査会議」の審議を経て合格証が発行され、さらにその結果に基づいて全国会議で審査のうえ、適マークの使用承認となります。

なお、この品質監査は組合員工場だけに限定するものではなくて、県下のすべての生コン工場に門戸を開いています。

監査員の皆様には何かとご面倒をかけますが、よろしくお願い申し上げます。

外国からの研修生が工場を見学

去る 9 月 17 日、フィリピンのバンケット州から高知県土木部に「協力交流研修員」として派遣されてきている研修生の生コンクリート工場見学がありました。

研修生 (Mr. Jerry Ditan Lao-e) は土木技術者ですが、日本語があまり得意でないため、「高知市また

は近郊の工場で、できれば英語の解説をお願いしたい」という県土木部からの要請によりいくつかの工場に照会したところ、2 工場が対応可能とのことでしたが、Mr. Jerry の日程や時間の都合もあって高知市の一宮生コンクリート(株)にお願いしました。

当日は午前 9 時に高知県土木部の職員 2 名も同行して工場を訪問、山崎一寛社長の流暢な英語による工場の概要説明に始まり、プラント設備や受材から出荷に至るまでの製造過程を見学した後、さらに荷降ろし先の建築工事現場での品質試験やコンクリートポンプ打設の様子などを見学しました。

Mr. Jerry によれば、フィリピンの彼の地区には生コンクリートのプラントは存在せず、中古アジテータ車などを利用して練っているそうです。また、硬化コンクリートの圧縮強度試験も手動式油圧ポンプによるものだけで、日本の進んだ一連の設備や技術に驚いているようでした。



Mr. Jerry Ditan Lao-e (中央。左右は県土木部職員)



東部試験所で圧縮強度試験機について質問する Mr. Jerry

引続いて同日午後、香南市野市町にある当工業組合技術センター東部試験所の見学も行なわれ、森澤所長

以下担当職員の説明を工組事務局小松専務の“迷通訳”により何とか切り抜けることができました。鉄筋の試験など、数値表示と共に目で確認のできる試験に Mr. Jerry は特に興味を持ったようでした。

構造改善事業計画について

生コンクリートの出荷量は平成2年をピークに減少の一途をたどり、すでに本件ではピーク時の半分を割っています。

ところが、その間に生コン工場の数はあまり減っていません。その結果、1工場当たりの出荷数量は極めて少なくなり、非常に厳しい経営を迫られています。

生コン業界では昭和54年から通産省告示を受けて近代化促進法による工業組合単位での構造改善事業に取り組みました。しかし、工場の共同廃棄は進まず、その後昭和63年からの第2次構造改善計画とその期間延長、さらには平成6年の第3次構造改善事業を行ないました。そして品質管理監査制度や共同試験場の設立、協同組合事業の充実等に関しては一定の成果を得ましたが、過剰設備の廃棄による「適正規模・適正配置」はほとんど進展していません。これは、共同廃棄が思うように進まなかったことに加え、新規に参入する工場が後を絶たなかったためです。

今の私たちは、第3次構造改善事業終了時と比較しても、1工場当たりの出荷量が減っていること、環境問題への対応や品質向上への要求が高まっていることなど、待ったなしの状況に置かれています。

そこで、全生連では構造改善事業の目標を次のように設定しています。

- ①事業の実施時期は平成22年4月から27年3月(5年間)とする。
- ②工場削減数は1,200工場とする。(現存数の70%まで減らす)
- ③品質向上・環境保全など高まる社会的要請への対応。

以上を実現するための具体策として、次のような項目を挙げています。

- ①各地での先進的な取り組み事例の全国展開
- ②共同設備廃棄に要する資金に対する優遇措置の確保
- ③品質に対する要請に応えるために、JIS改正等も含めての品質管理の強化
- ④セメントメーカー等関連業界との連携
- ⑤技術者の教育
- ⑥プラント設備の改善
- ⑦瑕疵(かし)担保保険に対する調査・検討

⑧共同試験所の充実・強化

⑨骨材品質共同管理システムの構築

実現するには非常に厳しいものが予想されますが、このための各種の調査やヒアリングなどが頻繁に行なわれるようになりました。組合員の皆様におかれてはお忙しいと思いますが、協力をお願いします。

代行試験有償化の進捗状況

私たち生コン納入者が実施しなければいけない試験・検査は荷降ろし地点つまりミキサー車のシュートの先端までであって、そこから先は購入者の責任で試験しなければいけないのですが、これら購入者で行なうべき各種試験のほとんどをこれまでの長い期間にわたり、私たち生コン工場技術員が無償で代行してきました。しかし、急速な出荷量減少に伴う人員削減などでそれも限界になり、技術委員会や理事会で検討を重ねた結果、本年4月から全面的にこの代行試験を辞退することとし、購入者が試験設備を持っていないとか試験方法に習熟していないなどの事情で、これまでのように生コン工場の技術者が試験を代行する場合は手数料を頂くということを、購入者に通知しました。

多くの地域では購入者の理解を得ていますが、一部の地域においては購入者の結束が固く、手数料を支払っていただけないケースが発生しています。

公共工事が激減する中で購入者の苦しい状況も理解できますが、それ以上に私たち生コン工場も厳しい経営が続いています。さらに、新しい政権の下でこれから先の建設業界の動向が非常に気になるころですが、購入者に対して気長に話し合いを続け、生コン業界の窮状を理解していただくようにしたいと思います。



盛況に終わる！ 青年部「夏まつり」

いささか時季遅れの報告となりますが、高知県中小企業青年中央会主催の第13回「組合青年部まつり」が、7月25日(土)午後6時～9時、帯屋町1丁目アーケード街で開催されました。当組合青年部も参加し、金魚すくい、アイスクリーム販売(なかなか板についたもので、生コンよりもアイスクリーム販売を本業としたらどうかと思えるほどの手つき)、防災活動のPR動画展示、生コン製造過程のパネル展示などを行いました。

中でも子供たちに人気のあったのは、ジャンケンでの勝者にミキサー車のミニカーが配られるということで、真剣なまなざしで頑張っていました。



青年部メンバーと金魚すくい

品管セミナー開催される

組合員工場のJISマーク表示認証停止問題を受け、去る7月29日に全生工組連から全国生コンクリート品質管理監査会議室長井上健氏を講師に招き、「企業倫理と経営者の責務」と題しての品質管理セミナーを布師田の「高知ちばさんセンター」で開催しました。このセミナーは問題の大きさに鑑み、主として生コン工場経営者及び工場長クラスを対象としたものですが、一般組合員の皆さんの参加ももちろん歓迎ということで、本組合員から70名、そして香川県工組から10名の参加があり、盛況のうちに終わりました。

なお、表示停止処分を受けた工場はいずれも改善・是正処置を実行し、再びJISマークの表示認証及び適マークの使用承認が得られています。

JIS及び適マークの使用停止は、公共工事への出荷が著しく制限されるため、実質的に出荷停止状態におかれるわけですが、近年、全国的にこうした工場が

散見されるようになっていきます。

こうした事態に対し、経済産業省JIS認証業務室長より、全生連吉田会長宛てに平成21年7月24日付けで「レディーミクストコンクリートJIS改正に伴う対応及び品質管理体制の強化について」と題して、次の通達がなされています。

「最近、貴連合会傘下の工業組合員・協同組合員企業において、工業標準化法違反によるJIS認証の取り消しが相次ぎ、レディーミクストコンクリートの品質に対する信頼を揺るがしていることは、誠に遺憾であります。品質管理体制の強化に全力で取り組むよう、組合員企業に対する周知徹底方お願いいたします」



セミナーのようす

主任技士勉強会のお知らせ

技術センター試験所では職員の技術力向上とコンクリート主任技士取得を目的として、コンクリート技術の勉強会を開いていますが、生コン技術者にとっては“不得意な分野”といわれる「構造力学」関係の勉強会を高知高専の横井先生を迎えて、下記日程で行ないます。そこで組合員工場のコンクリート主任技士を目指す方、あるいは興味のある方の参加を受け入れますので、希望者は東部試験所長森澤氏まで連絡してください。なお、資料準備の都合もありますので11月6日までにお願いします。

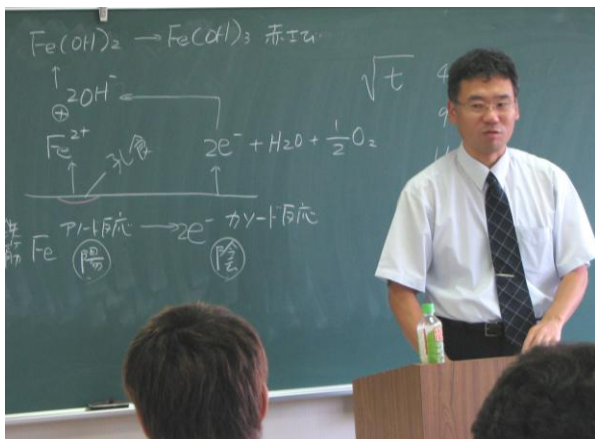
日時 11月11日(水) 13:00～16:00

会場 高知県生コンクリート東部協同組合 会議室
(技術センター東部試験所の2階)

内容 過去問題を中心に解き方を解説

なお、本年度の主任技士試験は11月29日(日)に高松市などで実施されます。

(次ページ写真は、昨年度勉強会の一コマ)



めて厳しい状況が続くと思われま

毎日工機が脱退 (中央協組)

(有)毎日工機(南国市八京、北添勇清社長)が、去る 8 月 31 日を以って高知県中央地区生コン協同組合を脱退しました。これにより、同協組は 21 社 11 工場となりました。

四国中央市で開催

四国地区 21 年度新技術普及講習会

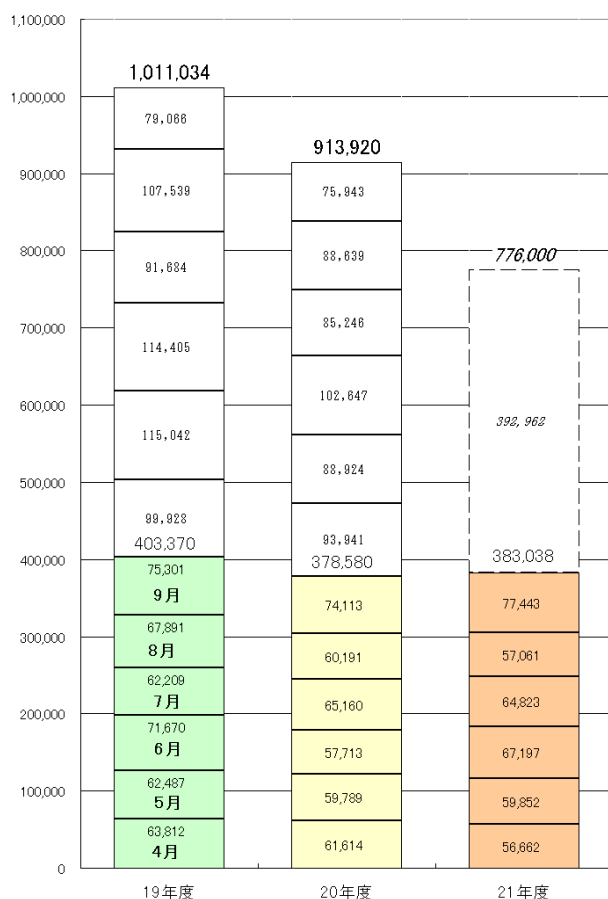
全生連四国地区本部主催の新技術普及講習会が 8 月 27 日、愛媛県四国中央市で開催されました。

「コンクリートのひび割れが構造物の性能に及ぼす影響について」と題して愛媛大学の氏家勲教授に、また「コンクリート乾燥収縮要求事項への対応について」と題して全生連技術研究所長鈴木一雄氏に講演いただきました。参加した四国 4 県からの生コン工場技術者約 70 名は熱心にメモを取りながら、興味深い話に聞き入っていました。(講演する鈴木氏)



前年を上回る！ 上半期の出荷数量

(単位: m³)



上半期(4月~9月)の生コン出荷数量の累計は、上図のように前年度をわずかに上回りました。しかし、8月の総選挙によって新しい民主党政権が誕生し、これまでの建設行政が大きく変わることは必至で、先のこととはまったく予想ができませんが、いずれにしても極

話題、ニュース等を下記までお知らせください。

生コン高知編集局

発行人 田邊 聖

編集人 小松 正 浩

高知県生コンクリート工業組合

高知県生コンクリート協同組合連合会

高知県高知市城山町 183-5

電 話 088-833-3110

F A X 088-833-3242

Mail namakon-kochi@sirius.ocn.ne.jp